

「高品位印刷」講座開講にあたって

平成22年7月

印刷は数百年の歴史を持ち、人類文明を支え発展させたものとして、人々から高い評価を得ています。昨今、印刷メディアが電子メディアに押されながらも、その独自性を保って、メディアとして、なくてはならないものになっているのは、この長い歴史に培われた礎があるからと考えられます。

デジタル時代の到来により、在来のアナログ手法を上回る製品品質が生み出され、市場に供給されています。さらに当節の経済状況を踏まえて、各企業では付加価値を高める努力をしていると同時に、熾烈な競争に打ち勝つべく営業や技術の「差別化」を模索しています。

間もなく日本全国がアナログ TV からデジタル TV に方式が変わり、画像の色が「キレイ」になるのみならず、シャープネスも格段に良くなります。

印刷業界も AM 175 線だけに固持し、時代に対応出来なければ、メディアとしての地位が危うくなります。その意味でも、高品位印刷は時代の流れの中にあり、今後活躍する方法であることを確信しております。

本講座の目的は受講生の皆様方が「高品位印刷」の特質を掴んで、いかに特徴を応用するかということの基礎を学んでもらうと同時に印刷の標準化も考えてみます。

国際印刷大学校 客員教授

内容

(第1回) 高品位印刷とは

- 1-1 高品位印刷の定義
- 1-2 なぜ高品位印刷か
- 1-3 高品位印刷の種類

(第2回) 高濃度・高輝度印刷

- 2-1 高濃度印刷の特徴
- 2-2 高輝度印刷の特徴
- 2-3 製版・刷版・印刷の条件

(第3回) 高精細印刷

- 3-1 高精細印刷の特徴
- 3-2 製版・刷版・印刷の条件

(第4回) FM 印刷

- 4-1 FM 印刷の特徴
- 4-2 製版・刷版・印刷の条件

(第5回) 高色域印刷

- 5-1 高色域印刷の特徴

5-2 製版・刷版・印刷の条件

(第6回) 高品位印刷のカラーマネジメントと標準印刷

6-1 ソフトプルーフとカラーマッチング

6-2 高品位印刷のハードプルーフ

6-3 標準印刷の条件と問題点

(第7回) 高品位適合原稿とGCR

7-1 各方法に適合する原稿

7-2 入稿時の確認

7-3 高品位印刷のGCRと墨

(第8回) 今後の展望

各方式の問題点と展望

以上